



参天製薬株式会社

2008年度 第2四半期決算説明会

第2四半期累計業績概要と
通期見通し

2008年11月7日

代表取締役社長兼CEO

黒川 明



2008年度第2四半期 連結累計期間業績



2008年度第2四半期連結累計期間 決算概況

(単位：億円)

	2007年度 2Q累計 実績	2008年度 2Q累計 実績	対前年 同期 増減率	2008年度 2Q累計 業績見通し*	対見通し 増減率
売上高	519	522	0.5%	520	0.4%
営業利益	106	56	▲47.2%	42	34.2%
経常利益	109	60	▲45.2%	47	28.0%
当期純利益	69	37	▲46.2%	31	20.1%

*業績見通し：2008年8月4日付



2008年度第2四半期連結累計期間 ハイライト

1. DE-109(シロリムス)導入による網膜領域パイプライン強化

- ・ 研究開発費が53億円増加。6月10日、業績見通し修正
 - ・ 営業利益見通し： 期初95億円 → 修正後42億円 → 実績56億円
 - ・ 当期純利益見通し： 期初63億円 → 修正後31億円 → 実績37億円

2. それ以外は、ほぼ業績見通しどおり進捗

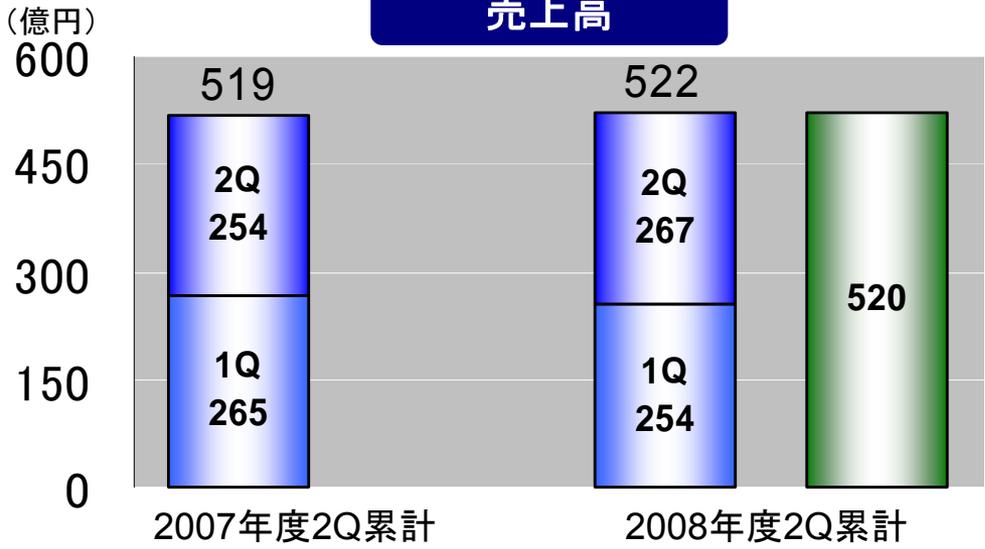
- ・ 売上： パピロックミニ等を除き、計画どおり
ヒアレイン(前期比+9.3%、計画比+3.2%)、
クラビット(前期比+2.0%、計画比+11.3%)が堅調
- ・ 経費： メリハリある販促活動により節減、研究開発費を除く販管費の
対売上高比率が31.3%に(前年同期32.0%、前年通期32.5%)
- ・ 売上原価： 品目構成変化により、2Qに改善(1Q: 35.9%、2Q累計: 35.3%)

3. タフルプロスト製造販売承認取得、ドイツ・デンマークで上市

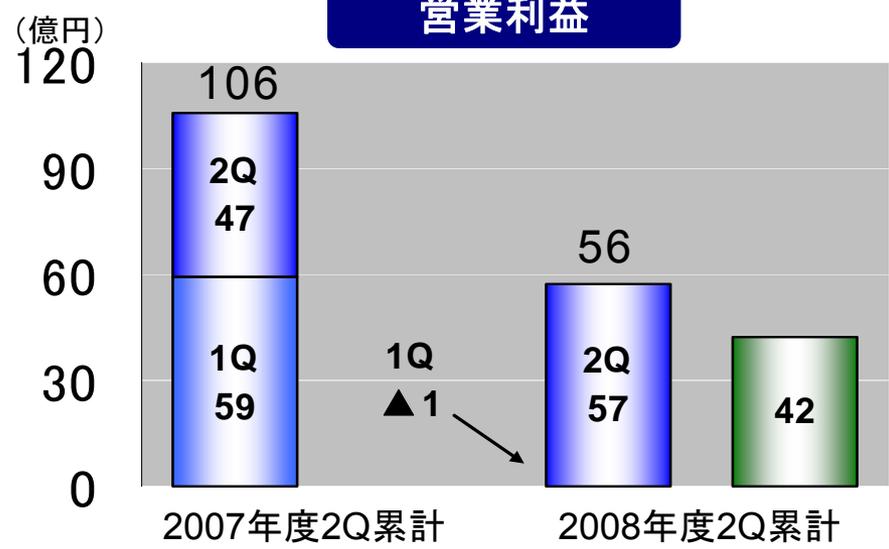


2008年度第2四半期連結累計期間 決算概況

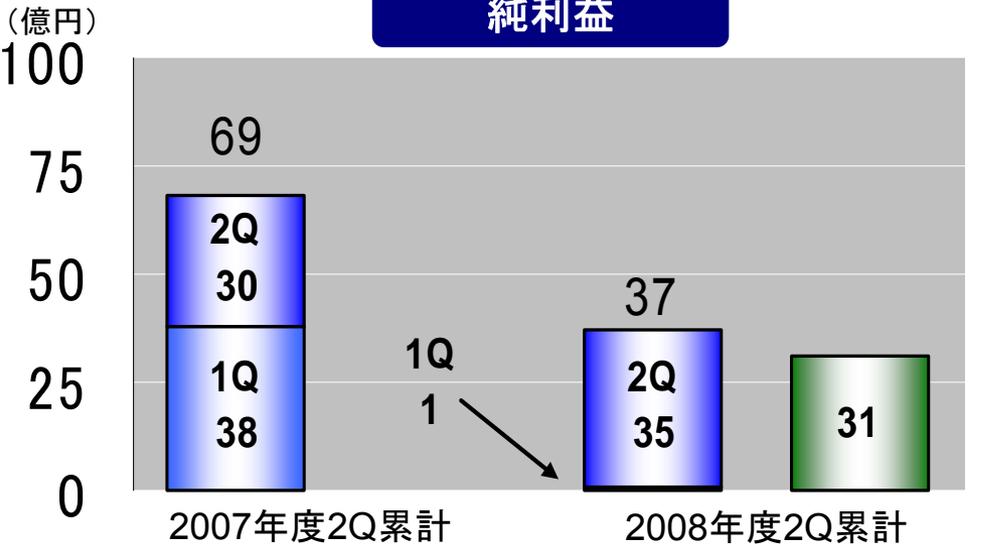
売上高



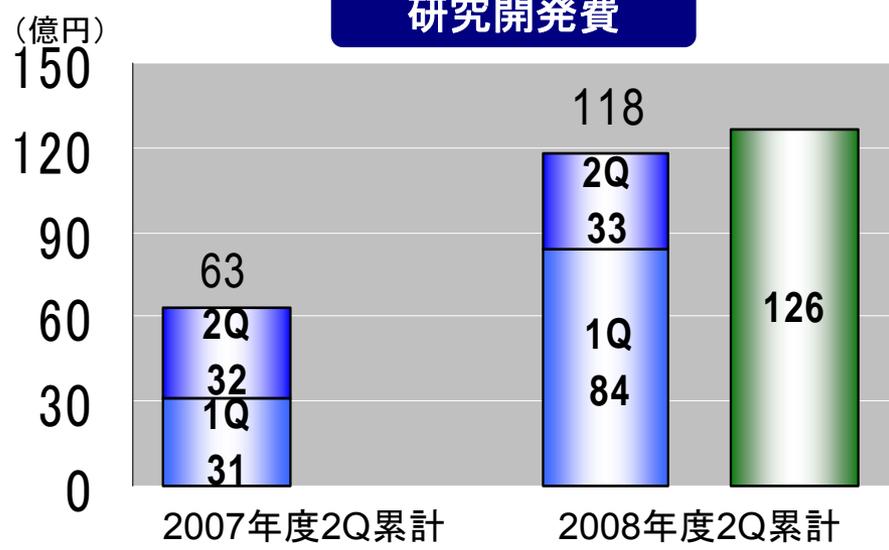
営業利益



純利益



研究開発費



実績数値 業績見直し*

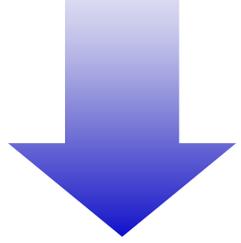
*業績見直し：2008年8月4日付



売上高の増減要因(対前年同期比較)

**2007年度
第2四半期
連結累計期間**
実績売上高
519.4億円

+2.7億円



**2008年度
第2四半期
連結累計期間**
実績売上高
522.1億円

国内 + 5.1億円

[増収要因]

- ・ 医療用眼科薬 + 4.8億円
- ・ 抗リウマチ薬 + 1.4億円

[減収要因]

- ・ 一般用医薬品 ▲ 0.7億円
- ・ その他 ▲ 0.5億円

海外 ▲ 2.4億円

[増収要因]

- ・ 欧州 + 3.2億円
うち、為替 + 0.3億円

[減収要因]

- ・ 北米 ▲ 3.8億円
うち、為替 ± 0.0億円
- ・ アジア ▲ 1.8億円

国内医療用眼科薬

- ・ 抗菌 ▲ 0.5億円
- ・ 角膜 + 8.8億円
- ・ 緑内障 ▲ 3.1億円
- ・ アレルギー + 0.9億円
うち、パピロクミニ + 1.6億円
- ・ その他 ▲ 1.1億円

欧州

- ・ 医療用眼科薬 + 2.7億円
うち、東欧 + 1.4億円
うち、北欧 + 0.7億円
うち、ドイツ + 0.3億円
うち、ロシア + 0.1億円
- ・ 受託製造 他 + 0.4億円

北米

- ・ 医療用眼科薬 ▲ 0.2億円
- ・ 受託製造 他 ▲ 3.4億円

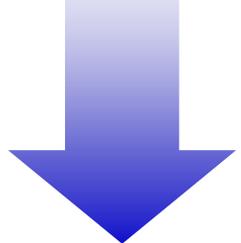


売上高の増減要因 (対業績見通し比較)

**2008年度
第2四半期
連結累計期間**

予想売上高
520.0億円

+2.1億円



**2008年度
第2四半期
連結累計期間**

実績売上高
522.1億円

国内 ▲ 0.8億円

[増収要因]

- ・ 医療用眼科薬 + 0.8億円
- ・ 医療機器 + 0.2億円

[減収要因]

- ・ 一般用医薬品 ▲ 0.6億円

海外 + 2.9億円

[増収要因]

- ・ 欧州 + 1.0億円
 - うち、為替 + 2.2億円
- ・ 北米 + 0.6億円
 - うち、為替 + 0.2億円
- ・ アジア + 1.3億円

国内医療用眼科薬

- ・ 抗菌 + 8.6億円
- ・ 角膜 + 2.1億円
- ・ 緑内障 + 2.1億円
- ・ アレルギー ▲ 11.7億円
 - うち、パピロクミニ ▲ 9.1億円

欧州

- ・ 医療用眼科薬 + 0.3億円
 - うち、東欧 ▲ 0.5億円
 - うち、北欧 + 0.5億円
 - うち、ドイツ ▲ 0.3億円
 - うち、ロシア ± 0.0億円
 - うち、西欧 + 0.4億円
- ・ 受託製造 他 + 0.6億円

北米

- ・ 医療用眼科薬 + 0.3億円
- ・ 受託製造 他 + 0.2億円

*業績見通し: 2008年8月4日付



損益計算書の要約差異(対前年同期比較)

(単位: 億円)

	2007年度		2008年度		主な増減要因
	2Q累計実績		2Q累計実績	増減	
売上高	519	522	3	(詳細は前述)	
売上原価	183	184	1		
(対売上高比率)	35.2%	35.3%	0.1 pt		
販売費・一般管理費	229	281	52		
(対売上高比率)	44.3%	53.9%	9.6 pt		
研究開発費を除く販管費	166	163	▲ 3	・国内 販売費、管理費減少(▲3億円) ・アジア 販売費増加(+1億円)	
(対売上高比率)	32.0%	31.3%	▲ 0.7 pt		
研究開発費	63	118	55	・網膜・角膜関連等(+55億円)	
(対売上高比率)	12.2%	22.7%	10.5 pt		
営業利益	106	56	▲ 50		
(対売上高比率)	20.5%	10.8%	▲ 9.7 pt		
営業外収支	3	3	0		
営業外収益	5	7	2		
営業外支出	2	4	2		
経常利益	109	60	▲ 49		
特別損益	0	0	0		
特別利益	0	0	0		
特別損失	0	0	0		
税引前当期純利益	109	59	▲ 50		
法人税等	40	22	▲ 18	税率 [07] 36.7%、[08] 37.9%	
当期純利益	69	37	▲ 32		



2008年度 通期連結業績見通し

タプロス採用施設の早期最大化

ドライアイ疾患啓発活動の継続による市場拡大促進

メリハリのある販促活動により経費は一定限度に抑制

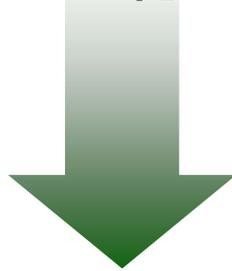
研究開発費は業績見通しどおり消化



売上高の増減要因 (対前年同期比較)

2007年度
実績売上高
1,033.9億円

+6.1億円



2008年度
予想売上高
1,040.0億円

国内 + 11.6億円

[増収要因]

- ・ 医療用眼科薬 + 2.2億円
- ・ 抗リウマチ + 2.9億円
- ・ 医療機器 + 7.1億円

海外 ▲ 5.5億円

[増収要因]

- ・ 欧州 + 4.7億円
- うち、為替 ▲ 4.0億円

[減収要因]

- ・ 北米 ▲ 9.4億円
- うち、為替 ▲ 0.5億円
- ・ アジア ▲ 1.0億円

国内医療用眼科薬

- ・ 抗菌 ▲ 16.2億円
- ・ 角膜 + 10.5億円
- ・ 緑内障 ▲ 0.4億円
- ・ アレルギー + 11.5億円
- ・ 粘弾性物質 + 0.2億円
- ・ その他 ▲ 3.2億円

欧州

- ・ 医療用眼科薬 + 6.0億円
- ・ うち、東欧 + 4.1億円
- ・ うち、北欧 ▲ 0.6億円
- ・ うち、ドイツ + 1.6億円
- ・ うち、ロシア ▲ 0.1億円
- ・ 受託製造 他 ▲ 1.3億円

北米

- ・ 医療用眼科薬 ▲ 1.5億円
- ・ 受託製造 他 ▲ 7.8億円



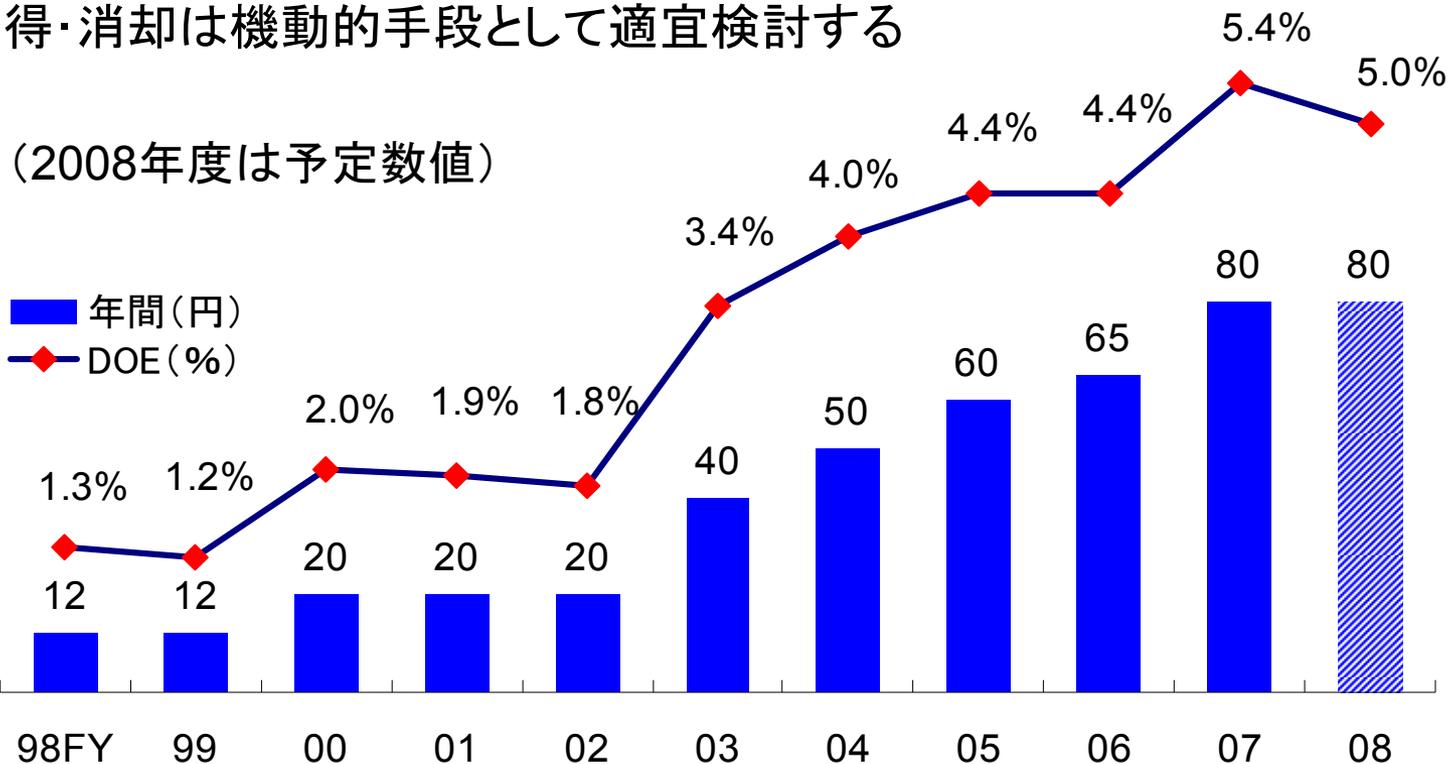
2008年度 連結業績見通し

(単位：億円)

	2007年度 実績	2008年度	
		見通し	増減
売上高	1,033	1,040	7
売上原価	365	363	▲2
(対売上高比率)	35.3 %	34.9 %	▲0.4 pt
販売費・一般管理費	465	526	61
(対売上高比率)	45.0 %	50.6 %	5.6 pt
研究開発費を除く販管費	335	332	▲3
(対売上高比率)	32.5 %	31.9 %	▲0.6 pt
研究開発費	129	194	65
(対売上高比率)	12.5 %	18.7 %	6.2 pt
営業利益	203	151	▲52
(対売上高比率)	19.7 %	14.5 %	▲5.2 pt
営業外収支	3	5	2
経常損益	207	156	▲51
特別損益	▲2	0	2
税引前当期純利益	204	156	▲48
法人税等	78	58	▲20
当期純利益	126	98	▲28
ROE	9.9%	7.6%	▲2.3 pt

S 株主還元策

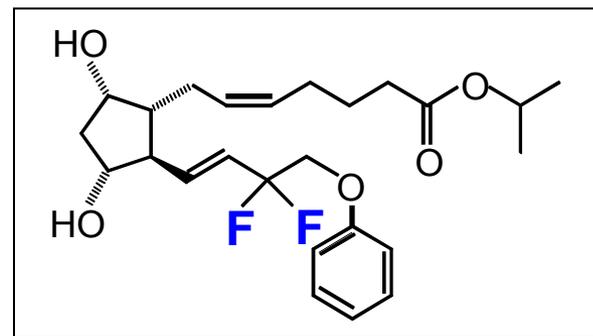
- 研究開発、設備投資、アライアンス等、将来の資金需要、財務状況等を考慮して、配当水準の維持、向上に努める
- 2010年度の目標としていた株主資本配当率(DOE)5%を2007年度に実現、2008年度も維持する
- 自己株式取得・消却は機動的な手段として適宜検討する



配当性向(%)	14.1	14.4	24.6	34.9	21.4	55.8	39.7	39.9	42.9	54.7	69.4
自己株取得額(億円)	0	0	51	32	32	0	26	0	0	48	-
総還元性向(%)	14.1	14.4	92.0	96.4	59.5	55.8	63.3	39.9	42.9	85.8	-

タプロス[®]点眼液 (TAPROS[®] Ophthalmic Solution) (欧州 : TAFLOTAN[®])

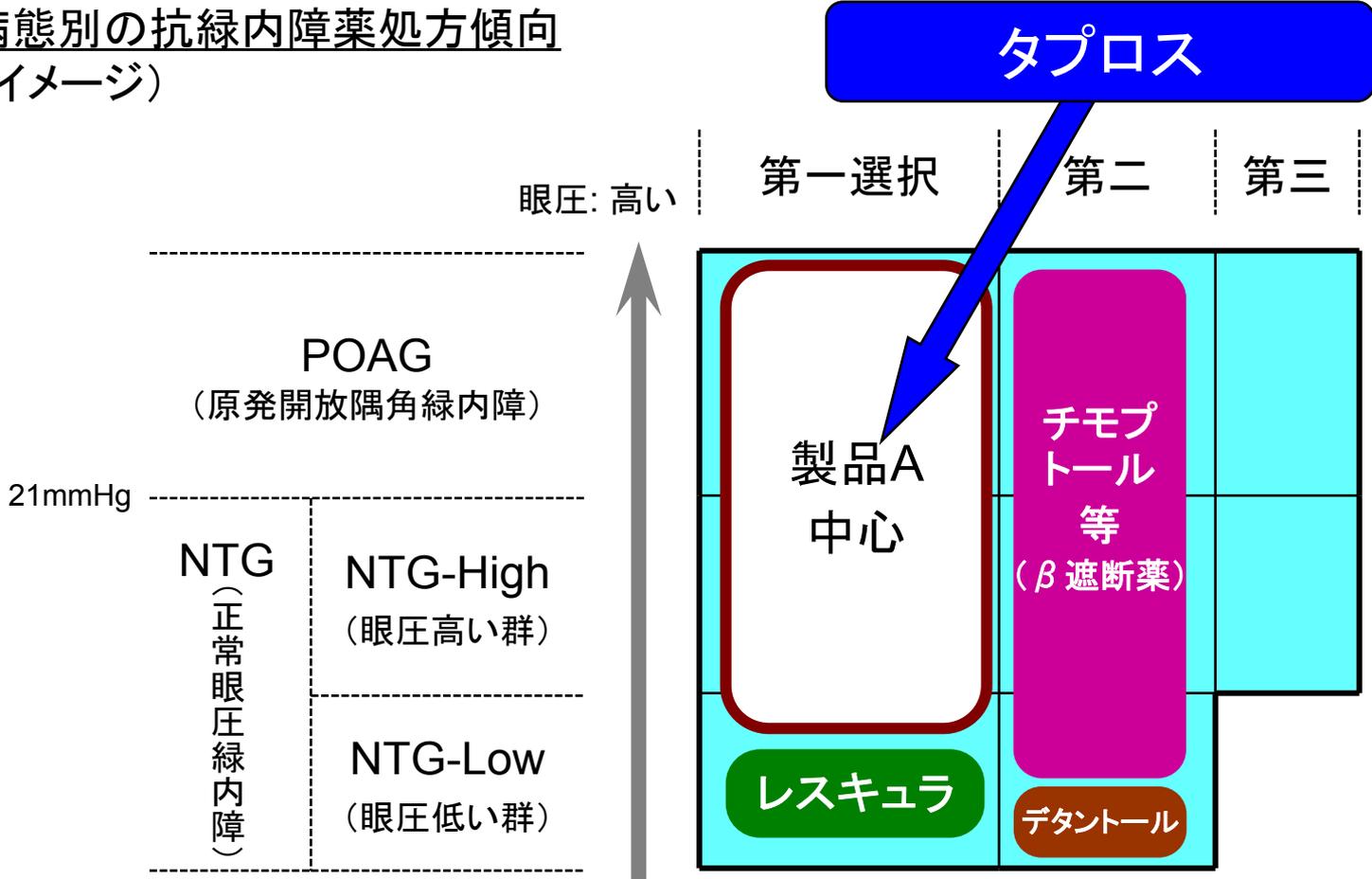
- ➔ 一般名 タフルプロスト
- ➔ 効能効果 緑内障、高眼圧症
- ➔ 開発形態 旭硝子(株)／参天製薬(株) 共同開発
- ➔ 分 類 プロスタグランジンF2 α 誘導体
- ➔ 特 長
 - ・強力かつ安定した眼圧下降作用
 - ・はじめて、開発段階で正常眼圧緑内障患者に対する有効性検証
 - ・視神経乳頭近傍の網膜動脈血流速度および網膜組織血流量増加作用
 - ・製剤は室温で3年間安定



S タプロスの製品ポジショニング(日本)

- 現在の参天製品の品揃えでは、第一選択薬としては一部患者への使用にとどまる
- タプロス発売により、参天は緑内障患者の大多数に第一選択薬として処方提案が可能な薬剤を手に入れることになる

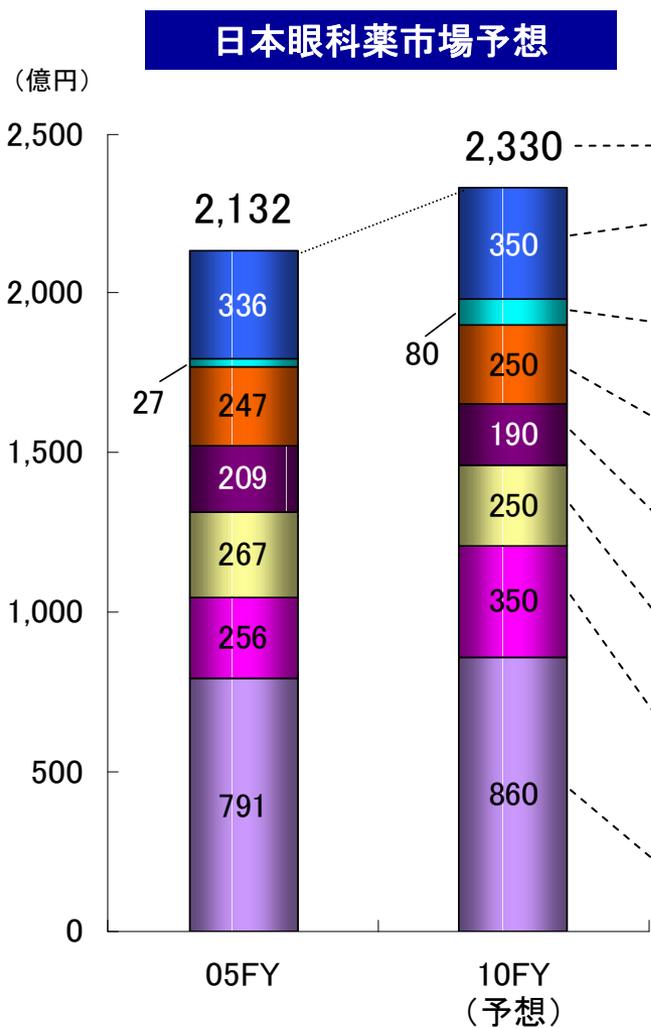
病態別の抗緑内障薬処方傾向 (イメージ)





【参考】成熟した日本市場における高成長の実現

- 薬価改定や競合激化により市場環境が厳しくなる状況下、緑内障、角膜疾患、網膜疾患にフォーカスすることで高成長を目指す



	CAGR (05-10FY)	参天主力品 (既存品)	参天シェア (08FY2Q累計)	主要パイプライン
眼科計	+2%程度		39.1%	
その他	+1%程度	オペガンハイ カリーユニ	43.5%	
網膜疾患 (DME/AMD)	+24%程度	—	—	DE-109 DE-102
抗アレルギー	+0.5%程度	リボスチン	23.9%	DE-103
抗炎症	-1%程度	フルメロン	35.0%	
抗菌点眼	-1%程度	クラビット タリビッド	71.1%	DE-108
角膜疾患 (ドライアイ)	+6%程度	ヒアレイン	77.9%	DE-089 DE-101 DE-105
緑内障	+3%程度	チモプトール/XE レスキュラ デタントール	19.7%	DE-085 DE-104 DE-092 DE-090



參考資料



参考資料
2008年度第2四半期
連結累計期間業績概要



販売部門別売上高および海外売上高

■ 販売部門別 売上高

(単位：億円)

	2008年度 2Q累計実績					
	国内		海外		合計	
	売上高	増減率	売上高	増減率	売上高	増減率
医療用医薬品	417.1	1.5 %	68.9	1.2 %	486.0	1.5 %
眼科薬	366.1	1.3 %	68.5	1.7 %	434.6	1.4 %
抗リウマチ剤	49.6	3.0 %	0.2	▲67.1 %	49.8	2.1 %
その他医薬品	1.3	6.5 %	0.1	121.0 %	1.5	14.2 %
一般用医薬品	27.1	▲2.8 %	0.0	▲47.9 %	27.2	▲2.9 %
医療機器	2.2	4.1 %	—	—	2.2	▲2.1 %
その他	2.4	▲17.9 %	4.1	▲42.2 %	6.6	▲35.2 %
合計	448.9	1.2 %	73.1	▲3.2 %	522.1	0.5 %

■ 海外売上高

(単位：億円)

	2007年度 2Q累計実績	2008年度 2Q累計		
		実績	増減額	増減率
欧州	42.2	45.4	3.2	7.5 %
北米	8.2	4.4	▲3.8	▲45.2 %
アジア	25.0	23.2	▲1.8	▲7.5 %
その他	0.0	0.0	0.0	—
合計	75.5	73.1	▲2.4	▲3.2 %

所在地別セグメント情報

■ 売上高

(単位：億円)

	2007年度 2Q累計実績	2008年度 2Q累計	
		実績	増減額
日本	464	467	3
欧州	51	50	▲1
うち欧州	42	46	4
うち米国	8	4	▲4
その他 ※	3	4	1
合計	519	522	3

■ 営業利益

	2007年度 2Q累計実績	2008年度 2Q累計	
		実績	増減額
日本	116	68	▲48
欧州	4	1	▲3
うち欧州	0	0	0
うち米国	3	0	▲3
その他 ※	▲3	▲1	2
消去又は全社	▲10	▲12	▲2
合計	106	56	▲50

※その他地域はアメリカ、中国、台湾、韓国であり、主な売上高と費用は下記の通りです

売上高：台湾および韓国の医療用医薬品、費用：米国の医療機器の研究開発費

(注) 海外売上高(仕向地別売上高)と区分は異なります

貸借対照表

(単位：億円)

	2008年3月末		2008年9月末		
	実績	構成比	実績	構成比	増減額
流動資産	1,027	65.6 %	990	64.2 %	▲37
固定資産	535	34.2 %	553	35.8 %	18
繰延資産	2	0.2 %	-	-	▲2
資産合計	1,565	100.0 %	1,543	100.0 %	▲22
流動負債	265	17.0 %	236	15.3 %	▲29
固定負債	28	1.8 %	31	2.1 %	3
負債合計	294	18.8 %	268	17.4 %	▲26
純資産合計	1,271	81.2 %	1,275	82.6 %	4
負債純資産合計	1,565	100.0 %	1,543	100.0 %	▲22

【主要変動科目】

- 流動資産：現金及び預金 ▲45億円、受取手形及び売掛金 +11億円
- 流動負債：未払金 +25億円、一年以内返済予定の長期借入金 ▲50億円
- 純資産：〔増加要因〕2Q四半期純利益 +37億円
〔減少要因〕配当金 ▲33億円

キャッシュフロー計算書 要約

(単位：億円)

	2008年度 2Q累計実績
現金等期首残高	516
現金等 増減額	▲50
営業活動によるキャッシュ・フロー	52
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲21
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲84
現金等に係る換算差額	1
現金等期末残高	466

(注) 上記「現金等」には現金同等物を含んでいるため、貸借対照表の現金・預金とは一致しません



設備投資額/減価償却費/リース料

(単位：億円)

	2007年度 2Q累計実績	2008年度 2Q累計	
		実績	増減額
設備投資額	17	10	▲7
減価償却費	16	16	±0
リース料	5	4	▲1

■設備投資 2008年度2Q実績 主要項目

- 中国での工場建設投資 3億円
- 研究開発機器、工場設備の維持更新等 2億円



参考資料
2008年度通期連結業績見通し

S 販売部門別 売上高/海外売上高見通し

■ 販売部門別 売上高

(単位：億円)

	2008年度					
	国内		海外		合計	
	売上高	増減率	売上高	増減率	売上高	増減率
医療用医薬品	825.5	0.6 %	136.1	2.9 %	961.7	0.9 %
眼科薬	725.3	0.3 %	134.6	2.8 %	860.0	0.7 %
抗リウマチ剤	98.0	3.0 %	1.0	▲0.7 %	99.0	2.9 %
その他医薬品	2.1	▲12.3 %	0.3	92.6 %	2.5	▲4.4 %
一般用医薬品	56.0	3.2 %	0.1	▲39.0 %	56.1	3.0 %
医療機器	11.1	178.6 %	0.0	▲100.0 %	11.1	169.5 %
その他	4.4	▲31.1 %	6.4	▲58.3 %	10.9	▲50.4 %
合計	897.2	1.3 %	142.7	▲3.7 %	1,040.0	0.6 %

■ 海外売上高

(単位：億円)

	2007年度 実績	2008年度		
		見通し	増減額	増減率
欧州	85.3	90.0	4.7	5.5 %
北米	19.5	10.1	▲9.4	▲48.1 %
アジア	43.2	42.2	▲1.0	▲2.2 %
その他	0.1	0.3	0.2	82.8 %
合計	148.2	142.7	▲5.5	▲3.7 %

S 所在地別セグメント情報

■ 売上高

(単位：億円)

	2007年度 実績	2008年度	
		見通し	増減額
日本	920	927	7
欧州	106	102	▲4
うち欧州	86	91	5
うち米国	19	10	▲9
その他 ※	6	10	4
合計	1,033	1,040	7

■ 営業利益

(単位：億円)

	2007年度 実績	2008年度	
		見通し	増減額
日本	226	178	▲48
欧州	5	3	▲2
うち欧州	▲2	3	5
うち米国	7	0	▲7
その他 ※	▲8	▲4	4
消去又は全社	▲19	▲27	▲8
合計	203	151	▲52

※ その他地域はアメリカ、中国、台湾、韓国であり、主な売上高と費用は下記の通りです

売上高：台湾および韓国の医療用医薬品、費用：米国の医療機器の研究開発費

(注) 海外売上高(仕向地別売上高)と区分は異なります



設備投資額/減価償却費/リース料

(単位：億円)

	2007年度 実績	2008年度	
		見通し	増減額
設備投資額	27	23	▲4
減価償却費	33	37	4
リース料	10	9	▲1

■ 2008年度 設備投資 主要項目

- 奈良研究開発センターの製剤開発棟
および新付属棟の建設投資



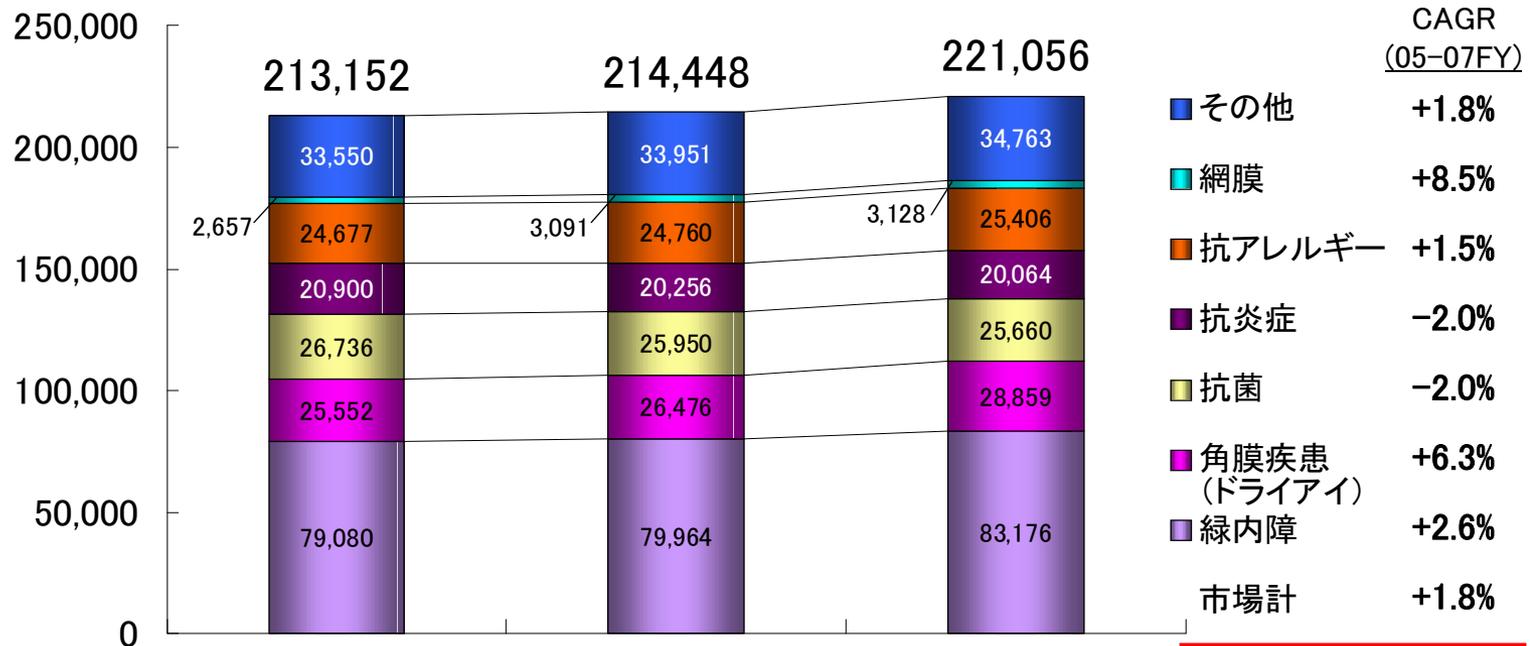
参考資料
国内医療用医薬品市場概況
(眼科薬・抗リウマチ薬)



国内医療用眼科薬：領域別市場構成

- ・国内眼科市場は、金額ベースで約2%の微増傾向。
- ・緑内障と角膜疾患(ドライアイ)で市場の半分を占め、この2領域が市場全体の成長を牽引。

(薬価、百万円)



金額ベース
CAGR
(05-07FY)

- その他 +1.8%
- 網膜 +8.5%
- 抗アレルギー +1.5%
- 抗炎症 -2.0%
- 抗菌 -2.0%
- 角膜疾患 (ドライアイ) +6.3%
- 緑内障 +2.6%
- 市場計 +1.8%

・対前年伸長率

市場	金額	05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
		+2.6%	+0.6%	+3.1%	+2.6%
	数量	-1.0%	+2.1%	+0.2%	+2.9%

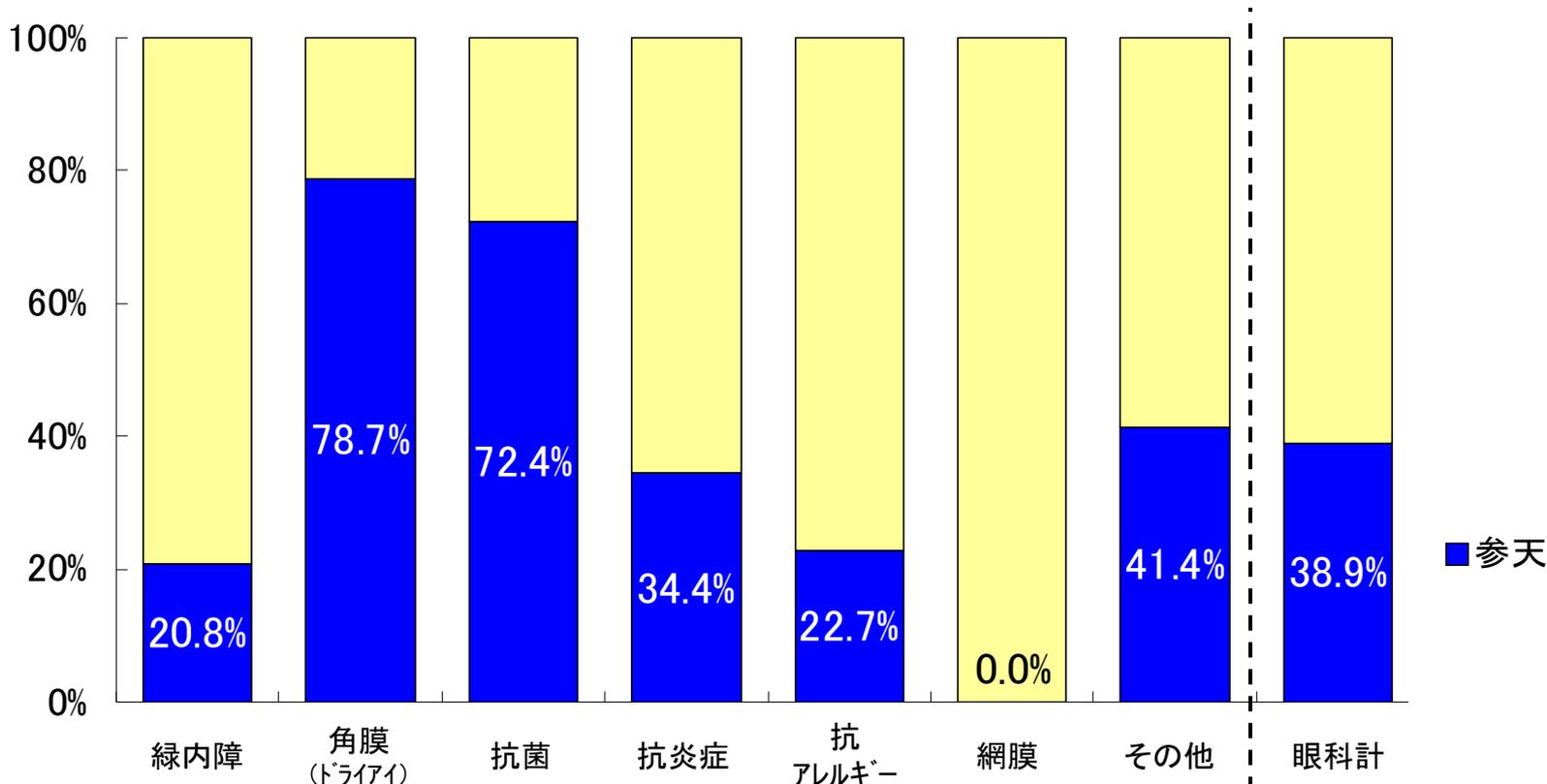
*抗菌：点眼剤+眼軟膏
 *抗炎症：ステロイド剤+非ステロイド剤+免疫抑制剤
 *その他：手術関連剤(粘弾性物質・眼灌流液)、抗白内障剤等



国内医療用眼科薬：領域別参天シェア(07FY)

- ・参天は角膜疾患(ドライアイ)治療剤・抗菌剤を中心に強固な市場地位を保持。
- ・一方で最大規模の緑内障領域、および急拡大が見込まれる網膜疾患領域は、参天のシェア拡大余地大。

(薬価ベースシェア／07FY)



■ 参天

市場規模 (百万円)	83,176	28,859	25,660	20,064	25,406	3,128	34,763	221,056
CAGR (05-07FY)	+2.6%	+6.3%	-2.0%	-2.0%	+1.5%	+8.5%	+1.8%	+1.8%

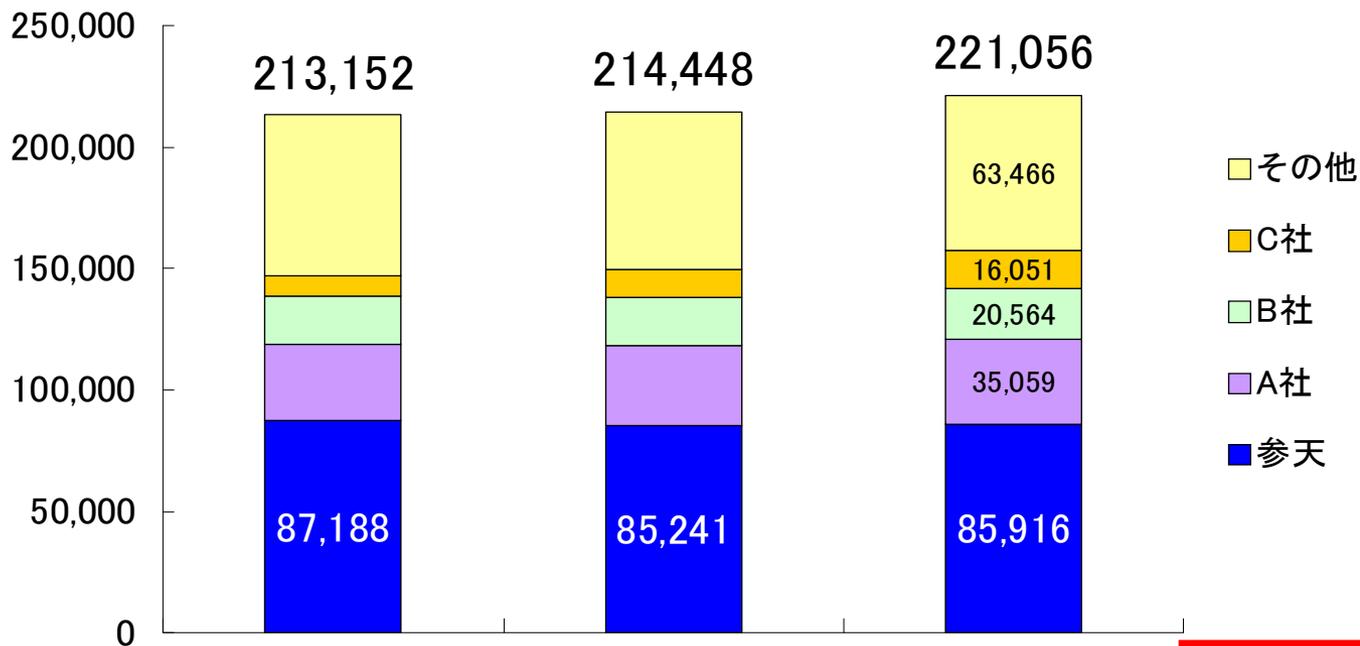
出典:IMS-JPM
IMS Japan 2005-08
無断転載禁止



国内医療用眼科薬：会社別売上構成(合計)

- ・参天の金額シェアは市場の約4割を占め、No.1の地位を保持。
- ・2番手メーカーに対しても2倍以上の規模を保持。

(薬価、百万円)



出典：IMS-JPM
IMS Japan 2005-08
無断転載禁止

・対前年伸長率

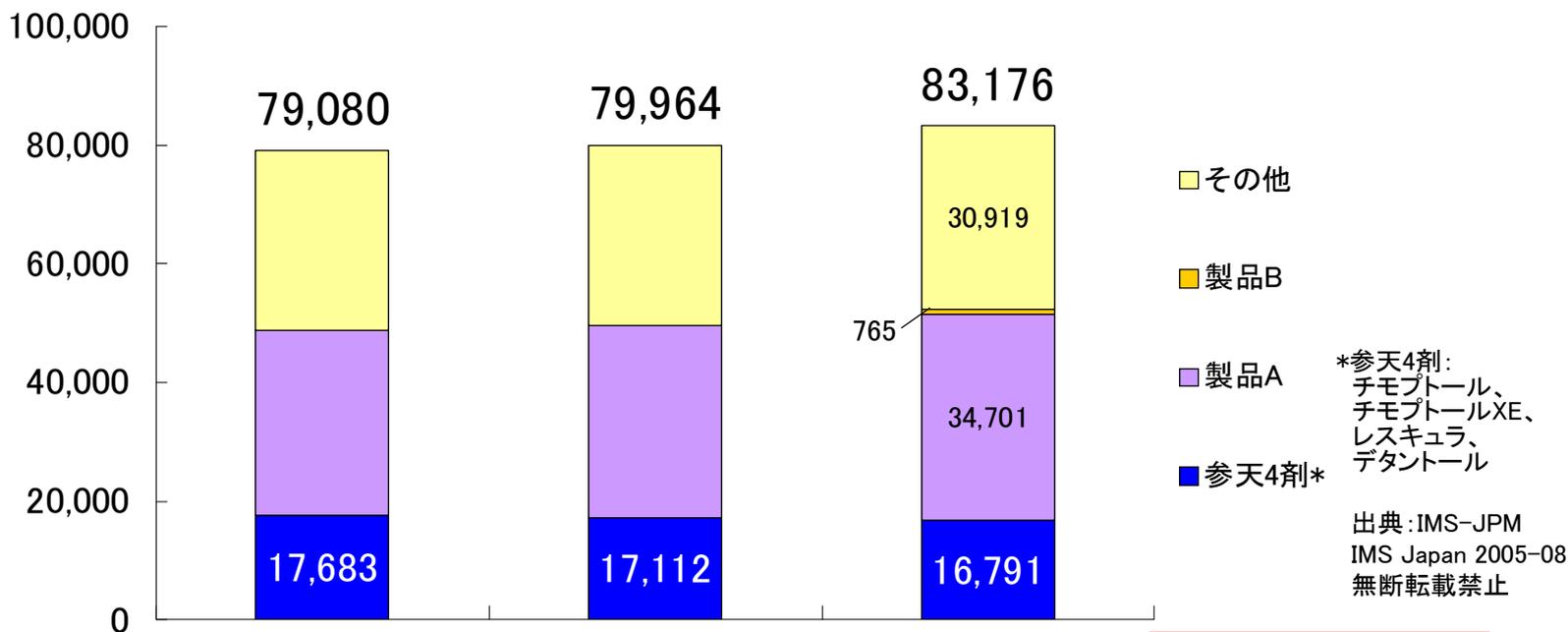
		05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
市場	金額	+2.6%	+0.6%	+3.1%	+2.6%
	数量	-1.0%	+2.1%	+0.2%	+2.9%
参天金額		+6.1%	-2.2%	+0.8%	+0.5%
参天金額シェア		40.9%	39.7%	38.9%	39.1%



国内医療用眼科薬：主要品売上構成(抗緑内障剤)

- ・市場規模は830億。眼科薬最大領域であり、07FYにおいて対前年+4%と成長している。
- ・参天は現在No.2の地位だが、近々、新製品タプロスを上市しトップシェアを目指す。

(薬価、百万円)



・対前年伸長率

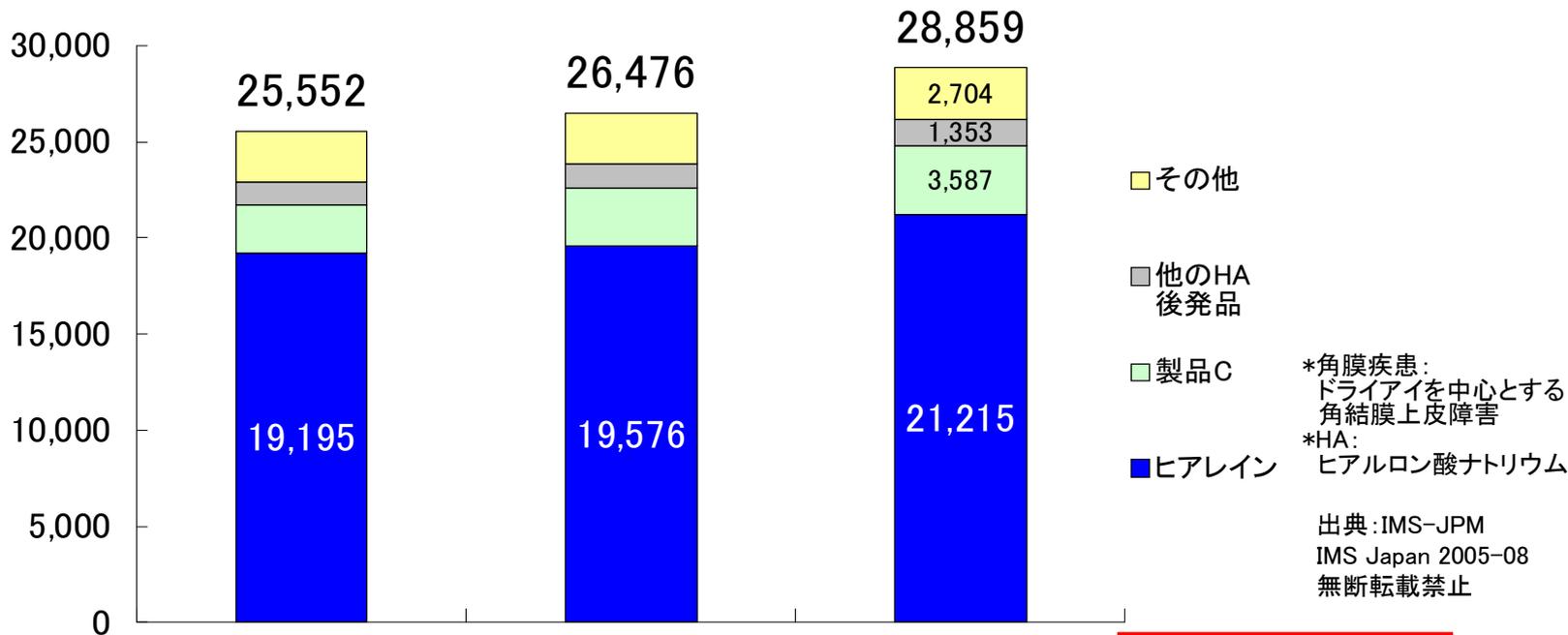
		05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
市場	金額	+5.5%	+1.1%	+4.0%	+2.3%
	数量	+2.2%	+4.4%	+1.2%	+3.1%
参天金額		+22.0%	-3.6%	-2.1%	-5.5%
参天金額シェア		23.2%	22.1%	20.8%	19.7%



国内医療用眼科薬：主要品売上構成 (角膜疾患治療剤)

- ・成長潜在性が高い市場。07FYにおける金額規模は300億弱、前年に対し9%の伸び。
- ・参天にとっては最も競争力の高い領域であり、約8割の金額シェアを保持。

(薬価、百万円)



・対前年伸長率

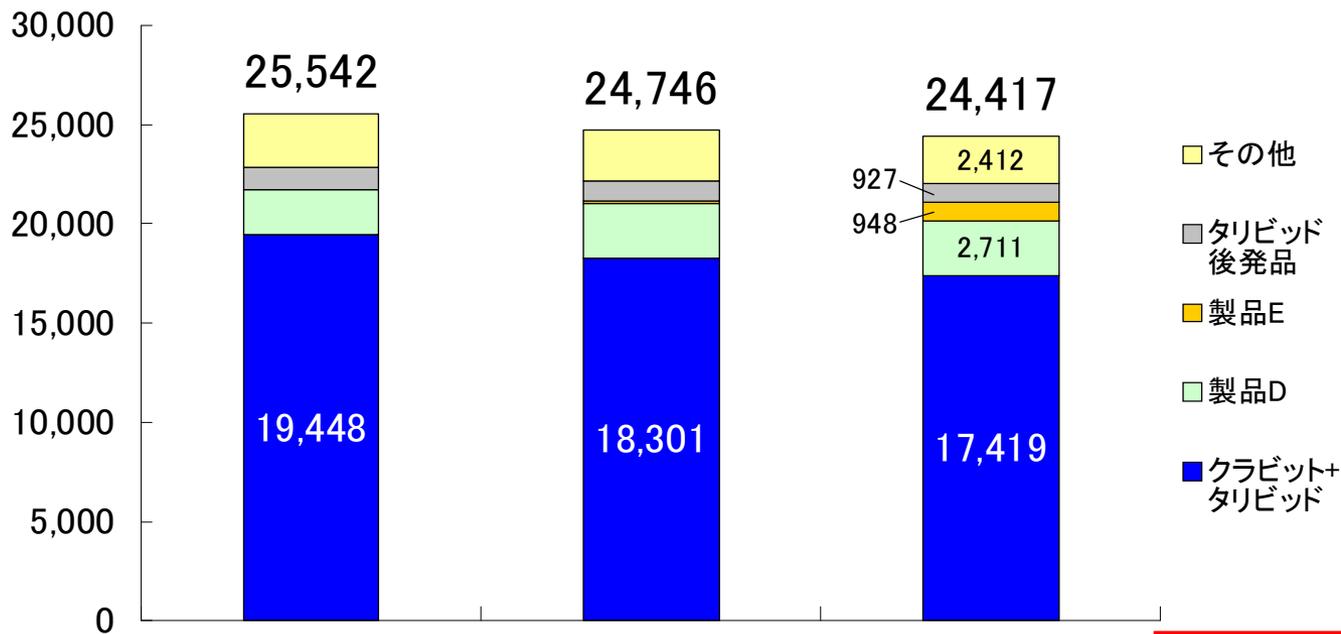
		05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
市場	金額	+10.7%	+3.6%	+9.0%	+8.6%
	数量	+8.4%	+6.8%	+7.2%	+10.4%
参天金額		+10.3%	+1.9%	+8.1%	+7.2%
参天金額シェア		80.7%	79.3%	78.7%	77.9%



国内医療用眼科薬：主要品売上構成(抗菌点眼剤)

- ・市場規模は約250億。07FYにおける対前年伸び率は-1.3%と微減傾向。
- ・参天にとっては角膜領域に次いで競争力が高く、7割強のシェアを保持。

(薬価、百万円)



出典：IMS-JPM
IMS Japan 2005-08
無断転載禁止

・対前年伸長率

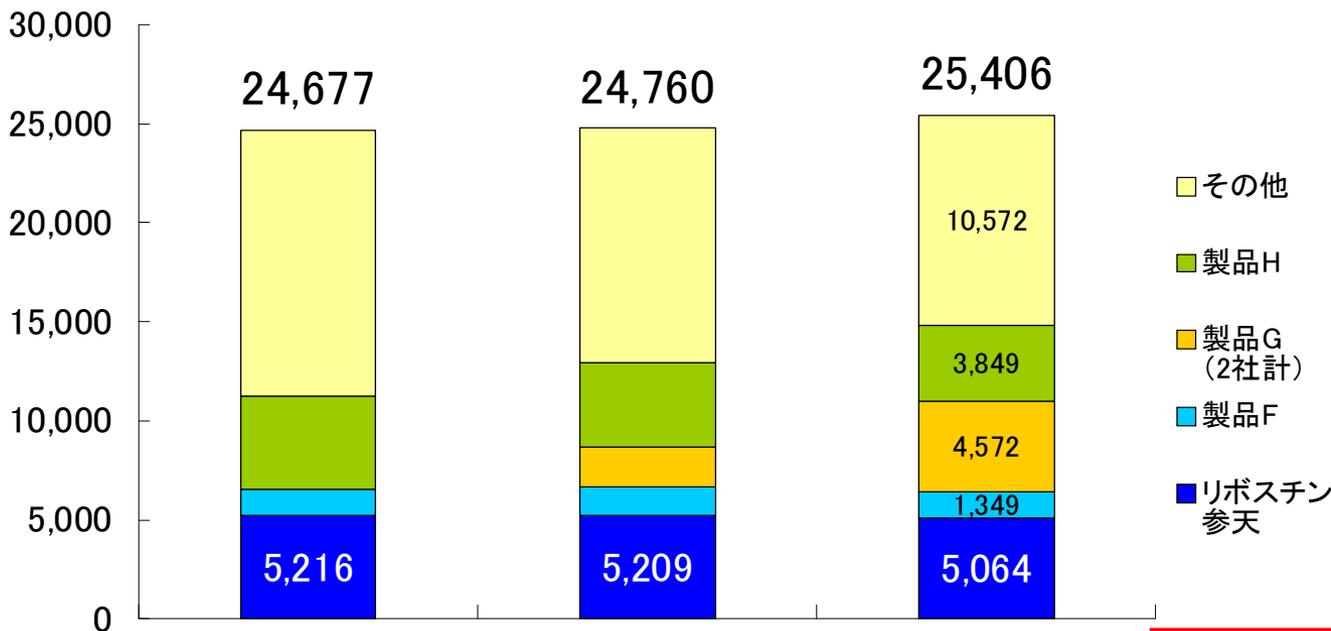
		05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
市場	金額	+0.5%	-3.1%	-1.3%	-0.7%
	数量	-1.2%	+0.9%	-3.3%	+1.8%
参天金額		-2.5%	-6.0%	-4.9%	-3.2%
参天金額シェア		77.4%	75.1%	72.4%	71.1%



国内医療用眼科薬：主要品売上構成 (抗アレルギー剤)

- ・市場規模は250億。年ごとの変動が大きいものの、07FYにおける対前年伸び率は2.6%増。
- ・競合新製品の上市により競争は激化しているが、参天はNo.1シェアの地位を保持。

(薬価、百万円)



出典：IMS-JPM
IMS Japan 2005-08
無断転載禁止

・対前年伸長率

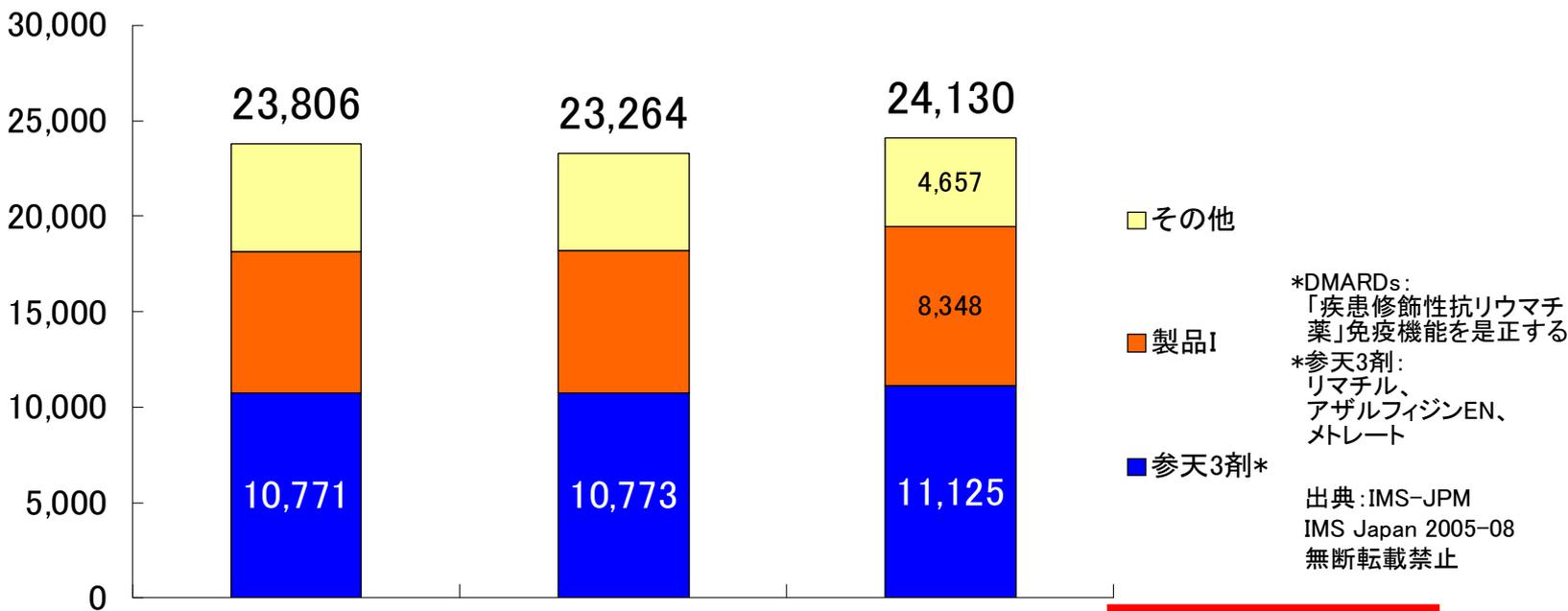
		05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
市場	金額	-13.2%	+0.3%	+2.6%	+6.6%
	数量	-12.9%	+6.5%	+1.0%	+10.3%
参天金額		-3.9%	-1.7%	-4.0%	+1.9%
参天金額シェア		24.8%	24.3%	22.7%	23.9%



国内医療用抗リウマチ薬：主要品売上構成(DMARDs)

- ・市場規模は240億。薬価改定の影響は受けるものの、07FYは前年に対し約4%成長。
- ・参天は学会が定めた治療ガイドライン「推奨度A」の3剤を擁し、50%弱の市場シェアでNo.1の地位を保持。

(薬価、百万円)



・対前年伸長率

		05FY	06FY	07FY	08FY2Q累計
市場	金額	+2.0%	-2.3%	+3.7%	+3.3%
	数量	+0.8%	+3.7%	+0.4%	+4.8%
参天金額		+7.6%	0.0%	+3.3%	+1.6%
参天金額シェア		45.2%	46.3%	46.1%	45.5%



参天製薬株式会社

2008年度 第2四半期決算説明会

新製品開発の現状

2008年11月7日

常務執行役員 研究開発本部長

西畑 利明



主要臨床プロジェクト状況一覧 (赤字部分: 1Q発表時からの進捗点)

グローバル戦略品

グローバル品

日本 (アジア) 品

疾患領域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認
緑内障		DE-104 ROCK阻害薬	中国	DE-085 タフルプロスト 韓国	日本 欧州
		DE-092 オルメサルタン			
角膜疾患	DE-105 ペプチド組合せ剤	DE-101 リボグリタゾン		DE-089 ジクアホソル ナトリウム	
網膜疾患		DE-109 シロリムス			
		DE-102 ステロイドDDS			
その他 眼感染症 アレルギー リウマチ	DE-108 レボフロキサシン	DE-103 PDE4 阻害薬			
		DE-098 抗APO-1 抗体			

主要臨床プロジェクトの現状(眼科)

■DE-085、日本:タプロス、欧州:TAFLOTAN (緑内障・高眼圧症)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	製造販売承認 (2008年10月16日)	薬事・食品衛生審議会 第一部会(7/25)	申請時期 (2006年7月)
欧州	上市* (2008年6月～)	上市 (2008年6月～)	承認時期 (2008年4月～)
アジア	韓国:販売申請 中国:P3実施中	—	韓国:申請時期 (2007年11月)

*:ドイツ、デンマークにて上市 (下線国 前回から追加)

米国	今後、事業化を踏まえた上、申請するか否かを決定
----	-------------------------

主要臨床プロジェクトの現状(眼科)

■DE-089 (ドライアイを含む角結膜上皮障害)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	製造販売承認 申請中	製造販売承認 申請中	一般名: ジクアホソルナトリウム 申請時期: 2008年5月



主要臨床プロジェクトの現状 －緑内障・高眼圧症－

■DE-092

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
欧州	P2パイロット試験	P2パイロット試験	一般名:オルメサルタン

■DE-090

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	P2	P2	一般名:塩酸ロメリジン

■DE-104

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
米国	P2	P2	ROCK阻害剤
日本	P2	P2	



主要臨床プロジェクトの現状 —角膜疾患(ドライアイを含む)—

■DE-101 角結膜上皮障害(ドライアイを含む)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
米国	P2	P2	一般名:リボグリタゾン
日本	P2	P2	

■DE-105 遷延性角膜上皮欠損

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
米国	P1	P1	ペプチド組合せ剤



主要臨床プロジェクトの現状 —網膜疾患—

■DE-102 糖尿病黄斑浮腫

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	P1/2a	P1/2a	ステロイドDDS

■DE-109* 滲出型加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	P1/2a準備中	P1/2a準備中	一般名:シロリムス

* MacuSight社より導入。日本を含むアジアでの眼科領域の開発・販売権を保有。

主要臨床プロジェクトの現状 –その他–

■DE-103 アレルギー性結膜炎

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	P2	P2	PDE4 阻害剤

■DE-108 外眼部感染症

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	P3準備中	–	高濃度レボフロキサシン

■DE-098* 関節リウマチ

地域	開発段階		備考
	今回	前回(8/4発表時)	
日本	P1/2a	P1/2a	抗APO-1抗体
欧州	P1/2a	P1/2a	

* Argenes社に導出。国内販売権、海外開発販売権は当社が保有。



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward looking statements)を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なりリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 新薬の研究開発から承認・発売まで非常に長期間を要し、開発中止、承認申請後の不許可など不確実性を多く含みます。新製品に関わる見通しは、他社との開発・販売提携等を前提とするものが含まれており、こうした提携の成否は当社の業績や財務状況に影響を与える可能性があります。
- 現在発売している主要製品や将来発売が予定されている大型新薬が、万が一特許失効、製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。また、当社が販売している製品の多くは、他社から製造販売権、ならびに販売権を供与されていますが、契約期間満了後、契約条件の変更や、販売提携の解消などが起こった場合、業績に影響を及ぼします。
- 原材料の中には供給を特定の取引先に依存しているものがありますが、何らかの要因によりこうした原材料の供給が停止した場合や、これに起因して当社の製品の供給が滞った場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。